

診療最前線

感染症内科



感染症内科部長
田中 俊憲

感染症内科では、細菌、ウイルスなどの病原体により引き起こされる感染症の診療を行っています。感染症は健康な方だけでなく、がん治療中や手術後の方などにも発症することがあるため、依頼があれば院内の他の診療科の感染症治療にも協力しています。また、各種伝染病の予防やワクチン接種なども当科の重要な業務の一つとなっています。

新型コロナウイルス感染症の現状

2020年1月に中国武漢での流行が判明した新型コロナウイルス

イルス感染症は、世界中で爆発的に感染が広がり、2021年2月の時点で1億人以上の感染者と約250万人の死者を、国内でも約40万人の感染者と約7500人の死者を出しています。

当院でもコロナ専用病床を用意し、保健所から要請された患者さんの入院治療を行っています。



当院は第二種感染症指定医療機関です。入院の際は専用入口（写真）から病院に入り、専用の病棟で入院治療を行います。

●発症の原因となるウイルス

原因となるSARSコロナウ

イルス2は、名前の通り2003年に多数の死者を出したSARSウイルスと同じ系統で、通常の風邪の原因となるコロナウイルスとも関係の近いウイルスです。

のどや鼻などから感染し、どの痛みや発熱、下痢などを発症し、肺炎となった場合は呼吸困難となります。肺炎から死に至ることが多いため「新型コロナウイルス肺炎」ともいわれています。

インフルエンザなどと異なる特徴は、無症状・軽症のウイルス感染者が比較的多く、さらに無症状であっても周囲に感染させてしまうことです。このため、症状から「新型コロナウイルス感染症」と診断することが難しく、当院の外来でも発熱患者さんはもちろん、原因不明の息切れ、下痢・嘔吐、倦怠感などがある方は、すべて新型コロナウイルス感染症の可能性があると見て一般患者さんから隔離して検査・診断を行っています。

●新型コロナウイルスの検査

診断のための検査として、当院ではRT-PCR法、LAM-PCR法、抗原検査と胸部CT検査を行っています（表1、図1）。

新型コロナウイルスはRT-PCR法、LAM-PCR法、抗原検査のいずれかが陽性になれば診断はほぼ確定します。しかし、インフルエンザウイルスなどと比べて検査をすり抜けてしまう可能性が高いため、ウイルス検査が陰性であったとしても胸部CT検査で肺炎がないことを確認するまでは一般の患者さんとの接触は避けるようにしています。



ドライブスルーによる検査

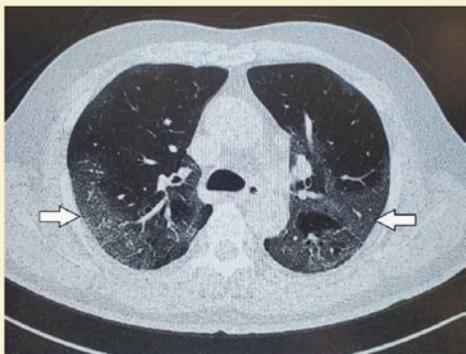


図 1 新型コロナ肺炎の CT 画像
(矢印部分が肺炎像)

表 1 新型コロナウイルスの検査法

検査法	判定までの時間	検査感度	注意点
RT-PCR 法	4～8 時間	70～100%	発症後 3～4 日は感度が低下
LAMP 法	1～2 時間	同上	同上
抗原検査	15～30 分	症状があれば同上	発症後 10 日以降は感度が低下 無症状者は感度が低下

表 2 マスクの予防効果
(マスクなしの感染を 100% とした場合)

マスクの種類	なし	不織布マスク	布マスク	ウレタンマスク
周囲からの感染	100%	70% 減	35～45% 減	30～40% 減
周囲への感染	100%	80% 減	35～80% 減	50% 減

今後、国内で新型コロナウイルスのワクチンが普及すれば流行も落ち着いてくることが予想されていますが、それでも注意な行動をとる方が多ければ流行の終息には時間がかかるでしょう。終息までの間はマスク（表 2）、手洗い、うがい、大人数での会食を避ける努力を続けていきましょう。

● 感染防止の努力を
 続けましょう

まだ、確実に効果があると判定された治療法がなく、ある程度効果があると思われる薬剤を患者さんの状態に合わせて使っているのが現状です。